

中間支援活動助成事業 実績報告

団体名	認定特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸	代表者名	理事長 中村 順子
事業名	<基本事業> NPO等の生活支援サービスの拡充支援および支援スキームの構築事業 <企画立案事業> コーズ・マーケティングの手法を用いたNPOと企業の連携モデル事業		

<事業実施実績>

年 月 日	<基本事業>	<企画立案事業>
	活動内容	活動内容
2019年4~6月	相談 情報提供	自販機の設置先開拓
2019年7~9月	相談 情報提供 研究会の開催(9/25)	
2019年10~12月	デザイナーへの依頼・調整 団体パンフレット作成支援	自販機の設置先開拓 企業連携の内容検討
2020年1~3月	団体パンフレットの完成 報告書の作成	審査会の開催(2/7) 自販機設置先への報告書作成 自販機デザインの再検討 ニュースレターの発行 企業連携の内容検討 報告書の作成

<効果と成果>

<基本事業>

少子高齢化・人口減少社会においては、公共サービスの縮小は避けられない。特に高齢者を対象とした分野では、介護保険枠外の住民同士の助け合いサービス（買い物補助、通院の付き添い、お話し相手、庭の整備等）の仕組みの構築が急務である。当事業ではそのような課題を解決するため、市内のNPO等が生活支援サービスの担い手として活動するための仕組みづくりと広報パンフレットの作成支援を行った。

仕組みづくりでは、対応する具体的サービスの検討（どのようなサービスをいくらかで提供するかと、活動の進め方の整理（ニーズ把握、現地確認、合意書の締結、サービスの提供、料金の受け渡し方法等）を行った。

広報パンフレットの作成支援では、プロのデザイナーとともに、わかりやすく活動概要をまとめ、必要とする人にどのように情報を届けるかについて検討した。その結果、市内4団体が新たに生活支援サービスの提供をスタートし、少しずつ利用者も増えつつある。

<企画立案事業>

優れた活動をしながらも、規模や人的資源の不足により助成金などの対象になりにくい地域の小規模な市民団体を応援するために、企業や大学などとともに「コース・マーケティング研究会」（構成メンバー：CS神戸、ダイドードリンコ(株)、日本政策金融公庫、兵庫県立大学、九州大学）を立ち上げ、連携の仕組みを検討した。そしてコース・マーケティングの手法で「地域活動応援自販機」を展開し市民活動をサポートする仕組みを構築し、推進している。2020年3月末時点で6台を設置した。本年度は、マンションの高齢者支援団体「鶴甲サポートセンター」（神戸市灘区）、フィリピン人の母子のための日本語教室・学習支援団体「マサヤン・タナハン（神戸市中央区）」に3万円ずつ「地域活動応援金」として交付した。

今後も着実に自販機を増やしていくことで、優れた活動をしているが規模や人的資源の不足により、助成金などの対象になりにくい地域の小規模な市民団体を応援していく計画である。

※コース・マーケティングとは、コース（社会的大義）を顧客に訴求することで、社会貢献と利益の向上を追求するマーケティングの手法のことを指す。

<収支決算書>

[基本事業]

(収入)

項 目	金額（円）
中間支援活動助成金	500,000
参加費収入	4,000
自己資金	1,900
合 計	505,900

(支出)

区分	項 目	金額（円）	左のうち助成対象 金額（円）
直接 経 費	講師謝金	30,000	30,000
	会場代	7,360	7,360
	視察先謝金等	176,000	176,000
	プロジェクト人件費	210,000	210,000
	小 計	423,360	423,360
間接経費（一般管理費）		82,540	76,640
合 計		505,900	500,000

[企画立案事業]

(収入)

項 目	金額 (円)
中間支援活動助成金	500,000
企業からの地域活動応援金	141,284
自己資金	12,316
合 計	653,600

(支出)

区分	項 目	金額 (円)	左のうち助成対象 金額 (円)
直 接 経 費	活動交通費	187,250	187,250
	報告書作成費	44,000	44,000
	プロジェクト人件費	160,000	160,000
	その他(広告宣伝費、応援金)	152,160	32,160
	小 計	543,410	423,410
間接経費(一般管理費)		110,190	76,590
合 計		653,600	500,000